

【小児科】 男性ヒトパピローマウイルス予防接種について

小児科医師：富田 雄一郎



え？女子だけでしょ？

え？子宮頸がん予防が男子に必要？

現在八王子市では小学校 6 年生から高校 1 年生の男の子のご家庭に、「男性ヒトパピローマウイルス予防接種」についてのお知らせが郵送されていることと思います。
今回はこのことについてのお話です。

【まとめ】

男性がヒトパピローマウイルス予防接種を受けるメリットは

- 女性へウイルスを感染させるリスクが減ります
- 肛門癌・中咽頭癌の発症率が抑えられます
- 尖圭コンジローマ（性病）の発症率が抑えられます
- 予防接種を男性が受けるメリットは大きいです

【男性へのヒトパピローマウイルス予防接種】

先進国では徐々に普及が進み、現在女性への公的接種が行われている 144 カ国のうち 50 カ国以上が男性への接種も実施されています。

今回日本でも男性へのヒトパピローマウイルス予防接種が承認され、八王子市では小学校 6 年～高校 1 年の男性への接種費助成が行われるようになりました。

【男性がヒトパピローマウイルス予防接種を受けるメリット】

ヒトパピローマウイルスは女性にだけ感染するわけではありません。

男性にも感染しますし、男女間での移し合いもあります。

「肛門癌・中咽頭癌」の原因の一つがヒトパピローマウイルスと報告されており、この予防接種でこれらの癌発症率が下がっているのが、男性へのヒトパピローマウイルス予防接種を日本よりも先に始めている国の現状です。

また、男性のヒトパピローマウイルス感染率を下げなければ、子宮頸癌予防のための女性へのワクチン接種が普及しても、子宮頸癌発症率が下がりきらない原因になってしまいます。

男性がヒトパピローマウイルスを受けることは、男性本人にも女性たちにも大きなメリットになります。



【男性がヒトパピローマウイルス予防接種を受けるデメリット】

ヒトパピローマウイルス予防接種後の副作用発生率に男女差はみられず、最も多いものが注射部位の痛みと腫れです。ヒトパピローマウイルス予防接種と聞くと、線維性筋痛症が思い浮かぶと思います。

線維性筋痛症は男性にも起こり得ますが、線維性筋痛症とヒトパピローマウイルス予防接種との因果関係は無いと報告されています。これは予防接種を受けた人と受けてない人での線維性筋痛症発症率が変わらないためです。現在はヒトパピローマウイルス予防接種後の極僅かに発症するかもしれない慢性化する後遺症に関して診療していただける医療施設も各地で開設されています。

【いつ接種を受けるべきか】

現在日本で使用されているヒトパピローマウイルス予防接種は2価、4価、9価の3種類存在します。現時点で男性に接種できる予防接種は4価のみになっています。ヒトパピローマウイルスには150以上の型が存在しますが、その中でも特に癌の原因となるウイルス、尖圭コンジローマの原因になるウイルスは絞られるため4価のワクチンでもしっかり効果はあると思います。ですが、効果がある数（価）が多ければ安心できるという方もいらっしゃると思います。

ワクチンは非常に高額ですので、助成を逃す手はないですし、行政の政策は年度毎に変わるため、いつ助成が終了になるか分からないというリスクもあります。また、接種間隔はどんなに間を詰めても最低で6ヶ月の期間が必要になります。

私見ですが

- ① 高校1年生はその先助成があるか分からないので、9月までには1回目のワクチンを開始して3月までに3回を終了させたほうが良い。
- ② 中学生で9価の接種をご希望される方は少し待っても良いでしょう。
- ③ 助成終了のリスクを大きくお考えなら早めの接種をしてしまいましょう。

上記は一つの考えです。接種のお考えが少しでもある方、接種に関して少しでも不安がある方はかかりつけのクリニックに相談してみましょう。